

平成 28 年度教育課程研究指定校事業 研究のまとめ

今年度、実社会に通用する人材の育成を図りながら、研究を行ってきた。4月と12月に生徒へのアンケートを行い、結果を分析すると、すべての項目で自己評価が向上していることがわかった。

これらの結果は、産業界との連携・課題研究での取組・実習でのルーブリックを意識した活動・授業でのアクティブラーニング等の活動によって生徒が意欲的に学校活動に取り組みようになったのではないかと考えられる。教育課程以外の部分でも、資格取得に多くの生徒が挑戦し、数多くの生徒が合格する等良い影響が出ている。

次年度については、特に「実習」における身に付けさせたい力と評価規準の検証」についての研究を発展させたいと考えている。この1年間、電気科職員で検討を重ねながら作成したルーブリックを活用し、実際に評価する中で教員による評価の差について検証したい。また、産業界が求める人材について調査し、よりよい人材の育成につながるルーブリックにする。

また、協働学習を通して知識を活用する指導の工夫については、ジグソー法、テスト=テイキング=チーム学習法の手法を活用し、継続して研究を行い、教材の開発等を行う。

4月と12月に実施した生徒アンケートの比較

